

損傷ランクー一覧

損傷種類	損傷名称	度合	点数	損傷種類	損傷名称	度合	点数
管破損	欠落崩壊	A	10	ひび割れ	くもの巣状	A	8
	断面変形	B	8		多くある	B	4
	割口視認	C	6		多少ある	C	2
管磨耗	鉄筋露出	A	6	浸入水	吹出し流入	A	5
	骨材露出	B	4		雨だれ流入	B	4
	表面ざらざら	C	2		にじみ流入	C	3
管ずれ	管径 1/4 以上	A	4	木の根 侵入	管径 1/4 以上	A	6
	管厚以上	B	2		管径 1/4 未満	B	4
	管厚未満	C	1		一部浸入	C	2
腐食	鉄筋露出以上	A	10	たるみ	管径 1/2 以上	A	4
	表面侵食	B	7		管径 1/4 以上	B	2
	一部侵食	C	6		管径 1/4 未満	C	1
蛇行	管径 1/3 以上	A	3	取付管 突出	管径 1/3 以上	A	0
	管径 1/3 未満	B	1		管径 1/5 以上	B	0
モルタル 堆積	管径 1/5 以上	A	0		管径 1/5 未満	C	0
	管径 1/10 以上	B	0				
	管径 1/10 未満	C	0				
モルタル堆積および取付管突出については損傷度に点数を持たないものとした。 これは、除去することにより、機能を回復できると考えられるからである。							

損傷ランク表で計算された点数から次式により管渠の損傷度を求める。

$$\text{損傷度 (点)} = \text{スパンの全損傷点} / \text{スパン延長 (m)}$$

この損傷度から、その管渠を補修するにあたっての緊急度を下表のように判定する。

損傷度	緊急度
1.5 点以上	A 緊急的に補修の必要がある
1.5 点未満 1.0 点以上	B 早期に補修の必要がある
1.0 点未満	C 次回の調査まで経過を見てよい

早期に補修の必要がある、緊急度 A・B の管渠に対する、補修範囲の判定は、損傷箇所 1 箇所を 1m とし損傷範囲がスパン延長の 1/3 以上の場合、1 スパン全てを補修する。